

ACE 北海道 12 月度研究会 「地域と情報と教育」開催！

事務局 吉田

暮れも押し詰まってきました。ACE北海道恒例の支部総会兼12月度研究会が12月12日、北広島市の道都大学で開催されました。道都の櫻井学長や、北広島市教委の山内さん、北広島の地域住民の方々も集まったの、画期的な研究会となりました。



竹山温泉にも来てもらっちゃって恐縮です。

【櫻井学長挨拶】来賓挨拶といわれたのだけれど、実は私 ACE のメンバーなのです。7 年前に校舎の新築をした。来年度からはネットワーク関係に大々的に手を入れる予定だ。今年の夏には研究室に一台ずつ配置したのだが、利用者のスキルを如何に上げていくかが当面の悩みの種だ。きょうは ACE の雰囲気を感じてみたい。

【基調講演・野口先生】

米国視察のお話をさせていただきます。サンフランシスコとデンバーで幼稚園から高校までを広く視察してきた。アメリカは情報教育の先進国といわれているがそれを実際に見て、どのように日本に持ち帰ることが出来るかということを検証するため、建築関係の先生方も含めて、アメリカの中でも代表的な環境の学校をピックアップして見てくることが出来たと思う。

アメリカの環境も何年も継続しているいろいろな悩みを抱え、それに対して真剣に取り組んでいる。日本は10年遅れている、という実感を得て帰国した。

アメリカでは文部省のような機関があるにはあるが、州や郡などが主導権を持って教育課程を定めていく傾向が強い。最近では教育工学、という言葉が日本でもはやりになってきているが、建築家や教員、親までがともに協力しあって教室の構成から一切適切を検討している。

「テクノロジカル・リテラシー」ということを何年も前から強調し、具体的な達成目標を据え、取り組みを行っている。技術に対する知識、ということにとどまらずメンタルな面や著作権、またそういった知識を自らプレゼンテーションすることまでを実践していく。

コンピュータはコンピュータールームにある、ということが日本

の中の常識だが、見ていった学校では既に続々とコンピュータが一般教室に入り込んでいる。台数もかなりの規模で、私立公立の隔てなく入り込んでいる。

自分たちの学習の成果を発表する、ということに非常に力を入れており、様々なメディアを使って、自己表現力を高める、ということに訓練している。

学校の中で、熱心でスキルのある先生が環境の構築について非常に大きな役割を果たすクリエイティブ・メンターと呼ばれる存在がいる。

昨年 COTF で聞いてきた話と似た取り組みをあちこちでやっているのだが、直接リンクしているわけではなく、中には知らないと言うひともした。逆に言うとこれが全体的な流れと言うことだ。

(写真の紹介)

高校まで行くと、PC、Mac 半々程度だが、それ以下では写真で見てもわかるように9割方 Mac だ。マルチメディア教育をしていく上では Mac が圧倒的に優位に立っているという認識のようだ。

(ビデオの紹介)

CISCO などの企業が実際教育の分野で協力をしている。ケーブルを作ったり、情報コンセントの設置をしたりとネットワークの実習なども実践的にやっている。実際にテレビ番組や Web などを作りながら、プレゼンテーション能力も高めている。

(まとめ)

「コンピュータを学ぶ日本、コンピュータと学ぶアメリカ (by 由水)」アメリカに10年以上遅れた段階でなにをやっているかなければ



1 月にも講演会頼んじゃってすみませんね野口先生。

ばいけいけないのか、正直言って時間がないところだが、この研究会のような存在がコアになってどんどん広げて行くしかない。地道な取り組みだが、進めていくことが重要だ。

(質問) 親の所得層は？

高い方に位置すると思う。子どもたちにどんどん還元されるような形での金の使い方をしていく傾向にある。

(質問)テクノロジーリテラシーはあるが、メディアリテラシーは？
 そういった言葉は聞かなかった。情報リテラシーということばもなかった。すべてテクノロジーリテラシーに包括されているようだ。コンピュータもさることながら、実際に(アプリケーションなども含めて)ものづくりをするのが最近の流行らしい。

【北広島市の生涯教育について・山内氏】

ひょんなことからこの人たちに自宅に押し掛けられてしまった。いろいろな話を聞いている内に、コンピュータとかそういったことに取り組みを進めていかなければいけないと考えた。

社会教育、生涯学習という分野でも大きな変革が訪れようとしている。生涯学習審議会の答申が今年出た中で、なにをしていくかが具体的にになってきており、それを北広島の事例と併せてお話ししたい。生涯学習に於けるネットワーク型行政の推進、ということがあげられているが、いままでは人的なネットワークをベースに考えられてきたが、今後は学習支援サービスの多様化ということの一つの手段として放送大学などの手段がとられていくやに聞いている。

学校教育と社会教育の連携や、民間企業との連携、広域的な市町村間の連携など、様々な要素が考えられるが、メディア機器を使った連携をとっていかないと、リソースの共有がスムーズには行かないと考えている。たとえば図書館が昨年オープンしたが、コンピュータによる管理を実践しているが、職員のリテラシーが低くて円滑なサービスが出来なかった時期があった。人材の育成は非常に重要な要素で、基礎はもちろん応用をきちんと出来る人間を作っていかなければ、職員同士の仕事がオーバーフローになっていく。

図書館業務のほかにもコンピュータを駆使して社会教育に取り組んでいかなければならないという認識を強く持っているが、現実的には学校教育でも苦労しているように、教える立場の不足が大きな問題になってくる。まだまだコンピュータに熱心な人々はオタク的扱いを受けていて、一般的になっていない。こういった会のような自主的な取り組みが一つ切り口になってくると思う。

生涯学習の中で、「リカレント教育」ということがトピック的に取りざたされているが、世代間のギャップを埋めていく努力や、社会人の再教育をし直す場を構築するような時代になってきている。社会人の場合、どこかに集まって学習をする、ということがかなり難しい部分があるので、逆に自宅にいながら学べる環境と言うことを整備していかなければいけないと思っているが、公民館などの社会教育拠点にネットワークなどの環境を作っていくにはよほどの先進的な意識が必要になってきている。そこで、大学などの高度教育機関などと連携をとって進めていくことが必要だ。

ごくごく最近まで、市議会で生涯学習など話題に上らなかった。



山内さん、私たち決して圧力団体ではないんですよ。の手段として放送

最近議員らから様々な形でそういった話が出てきていて、アクションプランを作っていかなければいけないような状況にもなりつつある。

先ほどアメリカのビデオにあったような、コンピュータが自由に使える環境を学校はもちろん市民の方に親しめるような形作りを率先して進めていくことが非常に大事なことだと思っている。何とかしなければいけない。改めて道都大などと話をしながらジョイントして幅広い学習環境を構築しなければいけない。

【道都大学札幌キャンパスの情報教育について・由水先生】

経営学部で情報処理教育を進めていく、という部分でいろいろと難しい部分があると考えているが、実務教育、スキルの到達点を明確にしていくことを目指している。2年前には到達目標を実際に策定し、様々な段階でのリーチを進めてゆく。このようなことは実際にアメリカでも取り組まれており、アプローチとして間違っていないことを認識した。2年もたつとすぐ古くなってしまっているので、どんどん新しい基準を策定していく。

情報教育研究会、という組織を学内に作っており、教職員のスキルアップを図っている。プレゼンテーションやディスカッションをしながらすべての教科で情報機器の利用を行っていくと考えた。また、他団体と明確な連携をはかっていくことで、新しい情報をどんどん取り入れていくことを押し進めている。

昨年はCOTF・未来の教室と言うことで研究を進めてきたが、来期はCiscoのネットワーキングアカデミーのプログラムを押し進めていく。7割が座学だが3割は実習だ。ネットワークの勉強をする、ということも重要だが、これはコンピュータに関する総合教育といえる。

Doing98 から Evolution99 ということを旗印に、活動を進化させていきたい。

【バーチャル雪まつり・水越代表】

(バーチャル雪まつりを紹介しました)

【ひらがなプロキシについて・Infosnow 高本】

元々こどもが小学校に入学したことをきっかけに、ACEなどの研究会にくるような機会が増えたが、翻ってこどもがコンピュータを使う際に、障壁になるであろう漢字のWebをひらがなにしたり、ふりがなを振ったりする仕組みを作ってみた。固有名詞などの処理が難しいが、かなり使えるものになってくる。

なぜプロキシにしたかという、専門のサーバを入れなくても、学校でも気軽に導入できる。CGIでこういった機能を提供するも



高本さん、2月のエキスポでも発表してくれるらしい!

のもあるが、簡単にブックマークするだけでよいなど、プロキシの方が優れていると考える。授業で調べ学習をする際でも、ゴミを拾ってこないように、各教科毎で辞書を作成し、最終的には教科別のURL収集とそれをメンテナンスしていく仕組みを作りたい。教育現場を知らないで、まだまだいろいろな機能を提供できるかもしれない。

また、ひらがなで漢字のサイトを検索できるサーチエンジンも作っている。

【北野台中と北広島東部中の取り組み・尾崎先生】

学校が開かれた学びの場として機能していくためにはなにをしなければいけないのか。保護者向けの講習会などを通じて、学校を中心に、地域の中で情報の発信地として機能していくことが出来る。学校は学校だけで完結してはいけい。コミュニティセンターとして様々な人々を呼び込んでいく、ということ



またこねっとで呑みすぎた。新聞さんごめん。

前提にしていきたい。

東部中も様々なひとの協力を得て、20台がすべて接続できる環境になった。地域の中でモデル校となっていくであろう。

ここでいったん研究会を終え、場所を竹山高原温泉に移して総会を実施しました。総会においては以下の議案が承認され、1999年度もACE北海道はがんばっていくことを確認いたしました。また、恒例のMGTには大成高校の入澤先生を選出、2月のACE全国総会 & Mac World EXPOへご招待となりました。また秋葉原行くか～。

なぜかというか残念ながらというか、総会と懇親会の写真が一枚もないのですが、北広島地域からご出席いただいたエヴァインターネットの北澤さんとかMolDataの工藤光江さん、NCF PCリサイクルワーキンググループの事務局長古屋さんらを交えて教育についての熱い熱い論議が深夜まで交わされました。

翌日の露天風呂は総会いや爽快でしたね。おかげで私は乾燥肌が少し和らぎました。

- MGT 受賞の言葉 -

大成高校 入澤

12月13日の日曜日、朝9時。突然、尾崎先生からお電話をいただき、「MGTになったよ」と連絡をいただきました。「MGT」の存在も知らない私は、「なんじゃそりゃって」感じてしたが Most Gambatta Teacher とのこと、大変恐縮してます。大成高校はイン

ターネットを導入して3年目です。私が言うのもなんですが檜山管内では一番インターネットなどの情報通信を活用していると自負しています。昨年の4月から大成町教育委員会にコンピュータシステムの入れ替え(本校は「大成町立」なのです)を頼みつけ、ようやく今年の6月に無事更新しました。更新してまもなくACEの研究会を開いていただき、いろいろ教えてもらいました。

秋ぐらいになって、インターネットもTV会議システムも自分の思うようにセッティングできたかなというところまでになりました。いつも思うのですが、システム上、何か問題があってそれを解決しようとするとき、いろんなことを試行錯誤しているうちにいろんな発見があります。それって、自分に蓄積されているって思うんです。それともう一点。「仲間」がいっぱいいるってことはすばらしいということです。

私の場合、「こねっと」のメンバーであったり、「NCF」のメンバーであったりそして「ACE」のメンバーなわけ。なにか、技術上または教育上の壁にぶつかったとき、MLを通じていろんなアドバイスがもらえることは本当にすばらしいと思います。また「オフラインミーティング」も大事だと思います。「オフミ」で初めてあった人でも、初めての気がしないのはネットワークのおかげでしょう。「オンライン」で知り合った人の「人間性」って、「オフライン」で始めてわかります。「たこ」とはよく言ったものだ)「オンライン」も「オフライン」も私達にとっては大切なネットワークです。この「ネットワーク=人のつながり」こそが、互いの教育活動への助けとなり、ひいては生徒のためになるのではないのでしょうか?これからもACEはもとより、こねっとなどのネットワークを生かして、更なる活動ができるよう努力し生徒に地域に還元していけるようがんばります。

よろしくお願いいたします。

1998 年度事業報告

(概 要)

- 教育研究会を開催しました。
- 各種団体に協力しました。
- 支部ニュースレターを毎月発行しました。(Vol.5.1 ~ 12)
- バーチャル雪まつり 1998 を実施しました。
- 情報と教育フォーラム・北海道のホームページ「オンコの木」を開設しました。
- NCF'98 に協力しました。
- INTER CITY OROPAS 運営に協力しました。
- POEM'98 に参加しました。

(詳 細)

- ・ 北海道高校文化連盟・北海道高校新聞教育研究会・北海道新聞主催第8回高校新聞制作技術講習会主催「コンピュータによる新聞作り」で技術講師として協力(1月9日、札幌開成高校)
- ・ 「人・人・人ネットワーク大作戦」インターネット技術講習会開催協力(1月13日~14日、札幌市ネットワークプラザ)
- ・ 新年会を開催(1月17日、武田支部長宅)
- ・ 「バーチャル雪まつり」を主管(1月30日~2月3日:制作、2月5日~11日:さっぽろ雪まつり会場で展示)
- ・ 「デジタル雪まつり新聞」を発行(2月3日~11日、計6号)
- ・ 「デジタルウィークさっぽろ」において、「第5回マルチメディア・バトル」を開催(2月4日、札幌パークホテル)
- ・ ACE 総会に参加(2月21日、幕張メッセ)
- ・ MacWorldExpo98 in TOKYO で、ブース出展および発表協力(2月20日~21日、幕張メッセ)

- ・こねっとプラン「こねっと発表会」パネルディスカッションに協力（3月7日、札幌経済センター）
- ・情報と教育フォーラム・北海道のホームページ「オンコの木」をオープン（4月、<http://onko.ncf.or.jp/>）
- ・4月研究会「インターネットで変わる大学」を実施（4月25日、札幌大学マルチメディア実習室）
- ・「第7回北海道・教育研究フォーラム」に協力（6月20日、北海道東海大学）
- ・札幌市教育研究協議会（札幌教研）東地区事業「ホームページ作成講座」に講師協力（6月23日、札幌市ネットワークプラザ）
- ・同清田区活動研究集会「インターネットを体験しよう」開催協力（6月23日、札幌北野台中学校）
- ・6月研究会「北海道の情報と教育フォーラム」と「インターネット講習会」を開催（6月27日、北海道大成高等学校）
- ・北海道学習情報提供機関・団体ネットワークフォーラム「生涯学習社会の情報共有」に実践事例発表で協力（7月15日、北海道立社会教育総合センター）
- ・「マルチメディア・モバイル・エデュケーションキャンプ」実施（7月18日～19日、厚真町ログハウス）
- ・こねっとプラン「初心者の方のためのマルチメディア活用研修会」開催協力（7月27日、北海道立社会教育総合センター）
- ・「サマースクール'98 in 稚内」に参加（8月2日～5日、稚内北星学園短期大学）
- ・「POEM'98 in ASO」に参加（8月6日～7日、熊本県・グリーンピア阿蘇）
- ・ぜんまい歯車プロジェクト「お父さん復権！！研修会・子どもと共にチャレンジするキューブカート！！」を開催（8月22日、札幌市ネットワークプラザ）
- ・視聴覚教育メディア指導者研修講座「コンピュータ利用専門研修」に講師協力（8月25日～28日、北星学園女子短期大学）
- ・「北海道教育大学附属札幌中学校教育研究大会」にインターネット速報で開催協力（9月11日、教育大学附属札幌中学校）
- ・平成10年度視聴覚教育研究合同大会「遠隔授業の実験」を開催協力（9月16日、かでの2・7および札幌八条中学校）
- ・「平成10年度札幌市教育委員会初任者研修」に講師協力（9月24日、札幌北野台中学校など9会場）
- ・「第二回北海道特殊教育諸学校情報教育研究大会」に講師協力（10月10日、北海道高等盲学校）
- ・「第50回北海道技術・家庭科教育研究大会・札幌大会」にインターネット速報で開催協力（10月22日、札幌市内9会場）
- ・「新100校プロジェクト平成10年度北海道・東北地区活用研究会」（兼10月研究会）を共催（10月30日、札幌サンプラザ）
- ・札幌音楽専門学院主催「コンピュータミュージック1日体験講座」に協力（11月8日、札幌音楽専門学院）
- ・「登別市立緑陽中学校公開研究発表会」に参加およびインターネット速報で協力（11月12日、登別緑陽中学校）
- ・「第19回北海道発明工夫教育研究大会函館大会」に参加およびインターネット速報で協力（11月20日、函館宇賀の浦中学校）
- ・「第3回北海道NIE研究大会」兼「第8回北海道新聞教育研究大会」に参加およびインターネット速報で開催協力（11月27日、札幌陵陽中学校）
- ・「バーチャル雪まつり1999」の第1回オフラインミーティング

を開催（11月28日、北星学園女子短期大学）

- ・1998年度ACE北海道支部総会（兼12月研究会）を開催予定（12月12日、道都大学札幌キャンパスおよび竹山高原温泉）
- ・「バーチャル雪まつり1999」の第2回オフラインミーティングを開催予定（12月19日、札幌市ネットワークプラザ）

1998年度会計報告

（収入の部）

項目	金額	内訳
前年度繰越金	87,341	
イベント関連運営費	962,500	
VSF協力費（雪まつり実行委）		300,000
VSF活動補助費（ダーフレックス）		50,000
雪まつりWeb構築作成料		300,000
デジタルウィークSapporo運営費		225,000
COTF協力金		87,500
本部協力金	380,740	
POEM交通費補助		171,200
ACE総会支部交通費補助		100,000
本部レター配布郵送料		29,540
事務局費		80,000
研究会・総会補助（道新）	50,000	
ソフト開発協力費（ダーフレックス）	35,000	
NIE報告書協力金	20,000	
決算利息	168	
その他雑収入	89,429	
計	1,625,178	

（支出の部）

項目	金額	内訳
機器購入費用（貸出機環境整備）	90,469	
総会、研究会費用	499,199	
支部研究会・総会費用		193,734
全国総会費用		57,172
POEM関連費用		210,793
NCF97総会支援金		37,500
イベント関連運営費	453,714	
VSFサーバ管理費		200,000
VSFその他運営費		97,404
VSFTV会議費用		26,105
デジタルウィークSapporo運営費		130,205
その他雑費	17,015	
次年度繰越金	564,781	
計	1,625,178	

1999年度事業計画

（方針）

- ・教育におけるマルチメディアとインターネット（新しい社会情報環境教育システム）環境の整備を推進する。
- ・教育現場でのマルチメディアとインターネットの具体的活用方法等について研究実践する。
- ・上記を目的として、年4～5回の研究会を開催する。
- ・ACE北海道支部のホームページの企画運営を行う。
- ・情報と教育フォーラム北海道のホームページ「オンコの木」の企画運営を行う。
- ・ニュースレターを毎月発行する。（Vol.6. 1～12）
- ・ACE北海道のメーリングリストの運営を行う。
- ・バーチャル雪まつり1999プロジェクトを実施する。
- ・教育実践に関する事例集「北海道の教育と情報（仮題）」をまとめ、過去の実績と今後の展望を具体化することを目指す。

・教育委員会、NCF、北海道マルチメディア協会、こねっとプラン、NIE 推進協議会などの団体の活動と連携し、上記の目的達成を目指す。

(月次計画)

1月	新年交礼会、海外視察報告会
2月	バーチャル雪まつり、デジタル雪まつり新聞、ACE 全国総会(幕張) MacWorldExpo98 inTOKYO 出展予定
3月	
4月	教育研究会
5月	
6月	教育研究会
7月	マルチメディアキャンプ
8月	ACE 全国大会 POEM'99 in 東京
9月	
10月	教育研究会
11月	
12月	教育研究会、北海道支部総会

(収入の部) 1999 年度予算計画

用件	収入	内訳
前年度繰越金	564,781	
イベント関連運営費	600,000	
ACEニュースレター配布郵送料		300,000
雪まつりWeb構築作成料		300,000
本部協力金	320,000	
POEM交通費補助		100,000
ACE総会支部交通費補助		100,000
事務局費		120,000
計	1,484,781	

このほかにACE事務局運営費として道新で50万円を予算化

(支出の部)

用件	収入	内訳
バーチャル雪まつり運営費	600,000	
サーバ運営費(経営情報センター)		300,000
回線等使用費		200,000
備品購入費・会議費		100,000
支部研究会・総会費用	170,000	
98年度支部総会		50,000
支部研究会		120,000
全国総会、POEM費用	300,000	
交通費補助		200,000
その他補助		100,000
機器購入・環境整備費	100,000	
雑費・予備費	314,781	
計	1,484,781	

教育とコンピュータ利用研究会
北海道支部規約<改訂 1-1>

第1条(名称)

本会は「教育とコンピュータ利用研究会北海道支部」と称す。
(以下本支部と略称する)

第2条(目的)

北海道における教育とコンピュータ利用に関する教育と研究の発展を目指し、広くそれに関わる活動を支援するために、「教育とコンピュータ利用研究会」内に本支部を置く。

第3条(活動)

第2条の目的達成のために、本支部は以下の活動を行う。

支部大会(年1回)

教育研究会(隔月を基本とするが、随時開催する)

「ACE 北海道ニュースレター」の発行(月1回)

情報学習システムの企画構築とそれに関する活動の支援

情報学習ネットワークの運営

情報教育に関する活動を行う他組織との連携 <改訂 1-1>

第4条(組織)

本支部の活動を円滑に行うために事務局を設置し、以下の役員を置く。

支部長1名、副支部長1名、会計1名、会計監査1名、幹事若干名

第5条(役員の任期と選出)

役員の任期は1年とし、会員の互選によるものとする。

第6条(事務局)

本支部事務局を北海道新聞社情報開発本部内に置く。

060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6

TEL.011-210-5801、FAX.011-210-5532

第7条(会員資格)

「教育とコンピュータ利用研究会」会員のうち、北海道をその主な活動場所とする者とする。

第8条(活動・会計年度)

本支部の活動・会計年度は、1月1日から同年の12月31日までとする。

第9条(会費・運営費)

本支部事務局運営費は、「教育とコンピュータ利用研究会」事務局費からの支部事務局運営費によってまかなう。但し、本支部活動を行うにあたり、特別に、若干の会費を会員などから徴収することがある。

第10条(支部総会等における議案)<改訂 1-1>

本支部が開催する支部総会その他の会議における議案は、事務局が適当と考えられる時点においてニュースレター、メーリングリスト、ホームページなど支部会員がもれなく閲覧できる手段でそれを公開し、支部会員に諮るものとする。また、開催日までに表明の無い会員については、その議案に関する判断を支部長に一任するものとする。

(付則)

本規約は、1994年4月9日から施行する。

本規約改訂<改訂 1-1>は、1999年1月1日から施行する。

以上

どうなる!?

「先進的教育用ネットワーク モデル地域事業研究指定」

文部省・郵政省は、政府の総合経済対策の一つとして、平成10年度第3次補正予算案に「先進的教育用ネットワークモデル地域事業」を計上した。このことによって、全国の小・中・高校への高速通信網の導入計画が来春から実現する見通しになった。

これは、教育センター等を中心として学校を高速回線で接続する地域教育用ネットワークをモデル的に形成し、このネット

ワークを活用してインターネットにおける通信技術と先導的な教育方法に関する研究開発を行うことを目的としている。当初計画の1,500校が1,050校と縮小したが、教育センターを核に全国30地域・各35校にわけ地域教育ネットワーク型で進めるなど新しい試みが実現する。

インフラとしては、特殊法人通信・放送機構リサーチセンターを「中央ネットワークセンター」とし→各教育センターを「地域ネットワークセンター」と位置付け→各学校を1.5MbpsのDSL(Digital Subscriber Line)、光ファイバーやWLL(Wireless Local Loop)、CATV回線、衛星回線を使って接続するというもの。この方法だと従来国が措置してきたISDN64kと比べ約20倍以上の高速回線が常時接続することになる。

文部省は教育センター等に置くサーバーやソフト開発等に約22億円、郵政省は回線料や人件費(技術者)等に300億円となり、総額322億円規模の事業となる。学校での研究内容は高速回線を利用した合同授業・遠隔授業・各交流事業・子ども新聞・子ども放送局等の在り方について行われる予定で、対象となった学校には研究期間の平成11年～13年までの間、インターネットの使える環境を無償で利用することができる。

文部省中等課では12月1日に各都道府県教委に指定希望用紙を送付済み、年内に内定し、来年4月には研究を開始する予定。しかし、文部省からはハード整備など最低条件だけを示すものの、高速回線の活用・運用には十分な設備や人材が必要で、参加条件のハードルは実質的には高いのが現実のようである。

全国的な動向としては、すでに図書館ネットワークなどが整い、第2次の学校のコンピュータ整備計画が進んでいる地域は参加の意向を示すものの、コンピュータ整備が遅れている地域や人材確保が難しい地域では二の足を踏んでいるようである。これに対し文部省では「財政難の中、措置された予算で情報環境を整備し、頑張っている自治体が今回の対象となる」とし、運営に関しては「教委や教育センター、学校関係者、技術者などで組織する、地区を束ねる推進協議会の設置」を推奨する。また、100校プロジェクトなどでも指摘されいた「個人任せにしないで、学校では委員会をつくり役割分担をする組織的な取り組み」を促すのもねらいだとしている。

すでに、道内の自治体のいくつかはこの事業の参加意思を表明している。小・中・高への第2次コンピュータ整備計画が進行している札幌市では各校に市教委管理課から文書が配付され、事業指定該当条件として、

1 情報教育用コンピュータが平成9・10年度(今後整備予定も含む)に導入された学校又は11年度中に整備が予定されている学校(11年度予算は現在財政課により査定中のため、平成5年度に導入された中学校は対象校として考えます。なお、査定結果によっては該当しなくなる可能性もあります。)

2 研究内容については、学校内で研究体制が整備され、学校と教育委員会が連携して研究を行うことができること。と示している。また、地域毎にHUB校を置くなどの構想も浮かびつつある。

今回の事業で大きくクローズアップされるのが、ネットワークの管理・運営に関する人材の確保であろう。特に教委ではACEの存在を大きく意識している気配が感じられる。ACEではInter City OROPPAS、バーチャル雪まつりやデジタル学校新聞、各教育研究団体への余りある支援などインターネットを活用した教育実践を押し進めてきた。また、人材的な面では高度の技術をもつ教員とインターネットの専門職が参加しての研究団体として従来「学校のことはなんでも(無理でも)学校がやる」というスタイルに大きな変革をもたらしたといえる。

さて、道内からどの地域が文部・郵政によって全国30地域の一つとして選定されるか全くの未知数であるが、Air DOも飛んだことだし、暗い話題の多かった北海道に明るい話題を投げ込んで欲しいものである。また、どの地域・学校に入ったとしても、ACEはそれらに積極的な支援をしていきたいと考えている。

ACE-Netへ アクセスしてみましょう！

北海道支部幹事 荒島

ACEでは設立当初から全国の会員の交流・情報交換のツールとしてFirst Classによる「ACE-Net」を活用してきました。

従来は各支部毎にアクセスポイントを設け、ダイヤルアップによる利用を行ってきました。これは1日に数回、各支部局のゲートを開きデータを交換するというパソコン通信(BBS)式でした。

First Classの特徴として、簡便なカスタマイズや優れたインターフェースが挙げられますが、FCを利用しているLAN(BBS)同士をつなぐことができるという機能(例えば、ACE-NetとApple Linkをつなぐなど)もあります。しかし、これはACE側の技術面から見送られています。また、アクセスポイントへのダイヤルアップ接続の他、IP接続も併用できるのがFCの特色でもあります。

それまで本部事務局を中心にIP接続による実験が行われてきました。北陸支部設立を機会に、それまでのアクセスポイント体制を止め、全面的にIP接続として運用することが総会で確認されました。また、それまで発行できるID数に限界があり全会員にIDを発行することが難しかったのですが、IP接続を機にアカウント数を増やし、全会員にIDを発行できるようになりました。そのために各支部からFCのライセンスディスクとIDリストの回収、カナダSoftArc社への変更の申請などの手続きを進めてきました。ようやくカナダからライセンスディスクが戻り、全会員にID発行ができる環境が整いました。

ACE北海道mlや前回のNews Letterでもお知らせした通り、すでにIDが発行されている方と未発行の方がいらっしゃいます。・IDが発行されているようだが、IDとパスワードがわからない方・IDが発行されていない方は、事務局までご連絡ください。

なお、インターネット接続されているLANの端末からACE-Netにアクセスする場合、Fire WallやProxyの設定によってアクセスできないことがあります。その場合は各サーバー管理者にご確認ください。(WWWは利用できるがE-Mailは利用できないような環境がこの場合に当てはまると思います。)

ACE-Netへのアクセス方法は、ACE北海道ホームページでご確認ください。

http://onko.ncf.or.jp/ace_homepage/ACE-NET/acenet.html

アクセスの前に

1. まず、「First Class Client3.5J」(FCC)をインストールします。FCCは有限会社クリエイト(URL: <http://www.creates.co.jp>)からダウンロードできます。
2. クリエイトのトップページの左のフレームを下げていきます。First Classのページへのリンクが出てきます。
3. FCCの解説が出てきます。この下のほうにダウンロードのリンクがあります。

クリエイトではFirst Class Internet Server(FCIS)専用のFCCと、従来のFirst Class Server用のFCCがあります。ダウンロードする

のは従来の FCC です。お間違えのないように！なお、FCIS 用の FCC では、ACE-Net にアクセスできません。

1. FirstClass の初期画面の「設定」のボタンをクリックします。

もし、この画面で出ない場合は、プルダウンメニューの「ファイル」から「新規」または「新規セットアップ」を選び、『ACE-Net』と保存名をつけて保存します。

・この他にアクセスファイルから FCC を立ち上げて設定する方法があります。

アクセスファイルは「Settings フォルダ」の中にあります

(1) First Class Client フォルダを開きます

(2) 「Settings フォルダ」を開きます。

(3) ACE-Net で使用するアクセスファイルは「Generic Network」です。

(4) これをコピーします。(念のためです ^^;))

(5) 「Generic Network コピー」の名称を「ACE-Net」などに変えて(変えなくてもいいですが...)開いてみます。FCC が立ち上がります。

2. 「サービス設定」の画面が出てきます。ここで次のことを設定します。

(1) 接続形態は「TCP-IP.FCP」にします。

(2) ユーザー ID とパスワードをいれます。いずれも、半角英数です。まだ、ID をお持ちでない方は、ユーザー ID 「ACEGUEST」パスワード「ACEGUEST」と入力してください。

(3) サーバーは「fc-gate.ace.or.jp」です。

(4) この部分の設定はこれだけです。

3. 次に「接続形態」の横の『設定』のボタンをクリックします。さらに、「高度な設定」をクリックします

4. ここで、右側の TCP ポートの設定を変更します。

デフォルトでは 3000 になっています。ここを 3004 にします。あとはデフォルトのままです。これで「保存」をクリックします。これで設定は終了です。

5. それでは、ログインしてみましょう。

Mac World Expo Tokyo99 と ACE 全国総会について

事務局

今年の Mac World Expo Tokyo は、2月18日(木)～20日(土)に幕張で開かれます。ACE では、ブースを確保して、様々な取り組みについて発表をしたり、教育関係の来場者とのコミュニケーションを図っていきたくて考えております。ブースの企画案を関東支部のほうで ACE ネットに上げてくれていますので、参考のためご紹介いたします。

また、総会は 20 日(土)の夜開催される予定です。よって、北海道チームは基本的には金曜日出発の日曜日帰着で乗り込みたいと思います。日程の調整など、よろしくお願いします。

【ブース企画案 98.12】1. 基本方針

・エースの最大の財産は、人。ヒューマンネットワークなので、それを感じてもらえるようなブースを作る。

・学校関係者はもちろんだが、企業、学生など教育に関心のある人は誰でも歓迎。

・昨年の反省を今年に生かす。

1) 昨年の形をもとに、早め早めにプランや状況を公開していく

2) ACE コンタクトの対応をしっかりとさせる

3) 協賛企業を募り、協力態勢をしっかりとさせる

2. スケジュール(各支部の分担については、仮のものです。)

17(水)後半 関東 (前日準備で設置など)

18(木)前半 関東 後半 関東

19(金)前半 九州 後半 上越・関西

20(土)前半 北海道・九州 後半 関西・北陸・東北

3. 内容

1) 基本 = ブースを 2 つに分ける(ポスターセクション・プレゼンセクション) → 一つみても誰かが何かをやっている。いろんな人がいる。という感じを伝えながら、ACE っておもしろそう! とエキスポでの記憶の片隅に残したい。また、教育関係の役にたつ情報がえられる場所となるように、全国の情報コーディネータ、メディアコーディネータに声をかけ「コーディネーター集合!」という企画も行う。

2) ポスターセクション = ACE に関するパネルを展示・入会案内とちらしなど配布(100 校コンタクト リスト & マップ・会場内教育関連情報)

3) プレゼンセクション = ACE の CM : 毎時 0 分 5 分、1 日 7 回、ACE の宣伝をする。スライドショーを作成する。

プレゼンバトル : 毎時 30 分 55 分、1 日 8 回、会員がプレゼンする機会を設ける。「エキスポは見るだけじゃない。あなたもエキスポの出演者!」を合言葉に、自分の実践やこれからの教育について、小さな舞台にたつてばんばん語ってもらう。賛助企業にも参加してもらう。(ワイン城ポエム方式)

コーディネーター集合 : これからの情報教育、ネットワーク教育には何が必要なのか、どうしたらいいのかを考える場を作ります。また、エキスポ後も情報交換をつづけていくヒューマンネットワーク作りをめざします。

高等学校新聞制作技術講習会のお知らせ

星園高校 高瀬

毎年恒例の高校新聞研究会の技術講習会が下記の通り開催されます。今回は道新の鬼整理デスク、中島光信さんといつもの情報開発本部奴隷二人が下記のテーマで講習をします。

主 催 : 北海道高文連新聞部・北海道高校新聞教育研究会・北海道新聞社

期 日 : 1999 年 1 月 14 日(木)

会 場 : 札幌市ネットワークプラザ(札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 第百生命ビル 5 階) 011-211-3435

参加費 : 1 人 2,000 円(当日会場にてお支払い下さい)

申込み : 今月 25 日までは、札幌開成高校(011-781-8171)渡辺へ。それ以降は直接会場へお越し下さい。

日 程 : 9 : 0 0 ~ 受付

9 : 3 0 ~ 開校式

1 0 : 0 0 ~ 技術講習 I (理論編)「今までの紙面づくり・これからの紙面づくり」(仮題)
講師 - 北海道新聞社整理部

1 1 : 0 0 ~ 技術講習 II (実習編)「インターネットを利用しメール新聞をつくる」(仮題)
指導 - 北海道新聞社情報開発本部

1 2 : 0 0 ~ 昼休み

1 3 : 0 0 ~ 技術講習 II (実習編) その 2

1 5 : 0 0 ~ 新聞制作座談会「山本・渡辺 両先生に聞く」他

1 6 : 5 0 ~ 閉会式

新春!ACE 教育講演会

「21世紀を切り拓く、北海道の
テクノロジカル・リテラシー教育」
～海外の情報教育環境からの報告～

主 催:教育とコンピュータ利用研究会(ACE)北海道支部
情報と教育フォーラム北海道
後 援:教育とコンピュータ利用研究会(ACE)
ネットワークコミュニティフォーラム '98(NCF'98)

日 時:平成 11 年 1 月 11 日(月)14:00 ~ 16:30

会 場:札幌市ネットワークプラザ
(札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 第百生命ビル 5F
Tel.011-211-3435)

次 第:

1. 主催者挨拶

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部長
北星学園女子短期大学 専任講師 武田 亘明

2. 講演 1 「フランス、ベルギー、ドイツの教育事情」

北海道立社会教育総合センター 社会教育主事
桜庭 望 氏

3. 講演 2 「21 世紀を見据えたアメリカのテクノロジー教育」

道都大学短期大学部 助教授 野口 光孝 氏

4. ディスカッション

「北海道のテクノロジカル・リテラシー教育のこれから」(司
会:武田)

参 加:参加無料。事前申し込みは必要ありません。直接会場にお
越しください。

問い合わせ先:教育とコンピュータ利用研究会北海道支部事務局
TEL.011-210-5506 FAX.011-210-5532
(北海道新聞社情報開発本部 内)
E-Mail:aoyagi@hokkaido-np.co.jp

講師紹介:

桜庭 望 氏(北海道立社会教育総合センター 社会教育主事)

秋田県大館市出身。牧場主を目指して北海道の大学へ。
高校教員として、化学、地学等の教科担当後、1992 年より社
会教育主事の道へ進み、上湧別町派遣を経て現在に至る。
BBS ホスト運営経験をバックボーンとする。オホーツク海
の流氷の様子のインターネット画像中継などにも尽力し
た。

今回の講演は、1998 年に EU3 カ国(フランス、ドイツ、ベル
ギー)への教育視察(EU Seminnar)によるレポートである。

野口 光孝 氏(道都大学短期大学部 助教授)

札幌市出身。1977 年東京理科大学理学部卒業後、民間企
業でシステム開発、運用管理などに従事。1991 年より道都
大学短期大学部に勤務し情報教育を担当している。研究
テーマは「マルチメディアを活用した学習環境の構築」。日
本教育工学会などに所属。昨年 NASA の教育プロジェクト
である COTF の視察、研究に取り組んだ。

今回の講演は、1998 年 11 月に米国サンフランシスコ、デ
ンバーの教育機関を視察した際のレポートである。

編集後記

先日久しぶりに神田のまつやに行きました。蕎麦屋というところ
は手早く食事を済ませたい人や、ゆっくり酒肴をつまみながら
ビールを呑む人、それぞれが関わり方を自由に変えられるところが
ネットワークの世界と似ているなあ、なんて。来年からはいい
いよ 6 巡目。地道な努力が何かを生むかも。(吉田)

あっという間の 1 年が終わりまた新たな年を迎えようとしている。
しかし、その実感はない。いつもの毎日と何ら変化はないからで
ある。コンビニは 24 時間営業を続け、街は休む暇もなく動いて
いる。自分もいつもの週と変わらぬ暮らしを続ける。電子メール
は毎日来るし、やりたいことは山ほどある。こんなに欲はあつて
も一人でやれる限界はある。そんなとき、周りの人がいろいろな
活動を始めだすと、少し安心する。人的ネットワークの重要性和
情報の共有化の重要性をさらに学んだような気がする。そして、
人の心の温かさや寂しさも。ま、明日もきっとあるに違いない。そ
う信じて生きるのさ!!(尾崎)

最近うちの 1 年生の娘がワープロに真剣に取り組む姿を見て、お
もしろいやらなんやら・・・。サンタさんにお手紙を書くのだと
言ってローマ字入力するのだけれどまだよくわからないわけで、
「さ」はどー打つの?」1 文字ずつおとーさんに聞いてきます。「S
(えす)と A(えい)だ(と)いいながらキーボードの位置を指さす)」
はじめはいいけどめんどくさくなってきます。何回かやっていると
よく使う字は覚えてくるのですが「きゃ」とか「じゅ」とかはな
かなかすぐ覚えられません。そこで、教科書に出てないか?、辞
典はどうだ?と見ると出ています。「よし、これ見てやってごら
ん」と渡してしばらくするとまた聞いてきます。「な～んだここ
に出てるじゃん」「でもこれないよ」・・・教科書や辞典は小文字対
応表だったのです。キーボードは大文字。ということで大文字対
応変換表を作ってあげたらもうもくと打ち始めました。(野口)

無事総会も終了し、今年の支部活動もあれやこれやとありましたが
とりあえず「締め」ですね。櫻井学長はじめ道都大のみなさま、
ありがとうございました。ところで支部会員のみなさんに嬉しい
お知らせ。2001 年(か 2002 年)の POEM を、ACE 北海道がホス
トとなって、北広島市 & 道都大の全面協力で開催する、という噂
が流れており、かなりの確立で実現される見通しです。わくわく。
まあよく年間 12 号も発行しましたね。編集長はじめ編集会議に
来てくれた先生方、あなた達はエライ。それから 26 日には琴似の
コンカリーニョでお祭りがあって、ACE はたこやきのたこやぎ屋を
出展しますのでぜひいらしてください。(青柳)

支部長の留守をちゃんと守るはずなのに、本年締めくくりの編集
会議にこうして遠隔参加です。今日は楽しい?忘年会!さて、
ACE は新春から元気です。11 日は講演会 & 新年会、そして末には
いいいよ VSF 製作日を迎えます。世の不景気が幸いしてか、学校
のネットワーク化が一気に加速しようとしています。いいいよ
ACE の正念場の年となったようです。支部長はやくかえってきて
～!(荒島)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1998 年 12 月 22 日発行

事務局:〒060-8711 北海道札幌市中央区大通西 3-6

北海道新聞社 情報開発本部内(担当:青柳・吉田)

TEL 011-210-5801 FAX 011-210-5532